

第208回 令和8年4月10日（金）

「世界の悲劇について」

私は立場上、政治的な主張をするつもりはありませんが、最近世界がおかしくなり始めていることは強く感じます。第2次世界大戦前の帝国主義が蘇っているような気がしてなりません。

力のある大国が力で劣る国から搾取することで帝国主義は成立しました。そもそも大航海時代になりスペインとポルトガルが地球を2分するトルデシリャス条約を結んだころから、世界は力による支配が横行し、多くの植民地が苦しみました。

戦後国際連合ができ、小さな国であってもその主権を法と対話で守ろうとする姿勢が生まれました。その体制からあと10年ほどで100年となります。人類は結局元に戻ってしまうのでしょうか。

大国から見て不条理な政治であったとしても、その国の国民が選択し主権を持った国が攻撃され無理やり修正を加えられることは正しいことではないと思います。イラクのサダム＝フセインが倒されたときでさえ、形の上では国際連合の多国籍軍による攻撃でした。

今回のイラン攻撃についても「言い分」はあるのだと思います。それでも主権を持った国が他の主権を持った国の政治体制を破壊し、新たな政権を造ろうとするやり方は弱肉強食の時代の到来を思わせ恐怖を覚えます。日本も安全と言い切ることはできません。

邪悪な人物を殺害したと大国の元首が発表していました。それに喜ぶ人も悲しむ人もいるのかもしれませんが、その攻撃において命を失った148人の小学校の生徒たちの死に仕方がないと言える人はいないと思います。

子どもが亡くなるということはあらゆることの中でもっとも大きな悲劇です。その子どもの将来が奪われただけでなく、それから何世紀も続く子どもたちの子孫がすべて生まれる機会を失ったこととなります。これは取り返しのつかない罪です。

人の命を奪う戦争をなくすために世界の政治家たちは対話を最優先してきました。言葉で伝わらないから暴力に訴えることは絶対に否定されるべきです。

148というのは単なる数字にしか感じません。でも自分たちの学校が攻撃されて、約1学年分の生徒の命が奪われたらと想像してみてください。どれだけ悔しいか、胸が痛いか考えてください。世界が間違った方向に流されないために、みなさん一人ひとりが正しい考えを持つことが大事だと思います。